



米山奨学生学友会

国際ロータリー第 2690 地区(鳥取・島根・岡山)



Rotary Yoneyama Scholarship Alumni Association

vol.3

ロータリー米山奨学生学友会は RI2690 地区に居住する 米山奨学生 OB 及び現役奨学生の同窓会です。

目 次

1. 受け継いだモノを次へ	2690 地区学友会・会長	何 曉麗
2. 雑感	2690 地区ガバナー	松本 祐二
3. ご挨拶	米山記念奨学会理事・パストガバナー	葛尾 信弘
4. 私の国際奉仕の原点	米山記念奨学会評議員・パストガバナー	延原 正
5. 2014 ～ 2015 年度の地区米山奨学会の活動状況	米山記念奨学会委員長	齋藤 寛治
6. 縁	タイ学友会初代幹事	ホンヨック・ブサコーン
7. 中国からの近況報告	米山学友会中国支部学友	殷 駿
8. ロータリーとの出会い	2690 地区学友・E クラブ会員	申 蓮花
9. 平和を求める	2690 地区学友会・前会長	梁 栄友
10. 2014 - 2015 年度地区大会に参加して	2690 地区学友会・副会長	河 智弘
11. ロータリーと日韓関係について	2690 地区学友会・幹事	羅 勝元
12. 岡山南 RC の思いで	2690 地区学友	カトリ チェトリ プラカシュ
13. ロータリークラブと私	2690 地区米山学友	盛 茗
14. アメリカでの留学生活	2690 地区奨学生	何 曉恩
15. 学友会 活動写真		
16. 学友会 役員・幹事名簿		
17. 2014 年度会計報告		
18. 学友会会則		

1. 受け継いだモノを次へ

第 2690 地区米山学友会・会長

何 曉麗（中国、2008－09 年度、岡山北 RC）

皆様、明けましておめでとうございます。
国際ロータリー第 2690 地区学友会は今年設立 10 周年を迎えることになります。これもひとえに奨学生と学友の皆様をはじめ、地区米山委員会の皆様、米山記念奨学会の皆様、地区ロータリークラブの皆様の温かいご支援とご指導の賜物と心より深く感謝申し上げます。

2005 年 11 月に設立して以来、初代会長祝洪波（中国、1998－99 年度、岡山南 RC）、前会長梁栄友（韓国、1997－98 年度、千葉印西 RC）のリーダーシップのもと、我々の学友会は主に下記のようなモノが成果として挙げられます。

●定期的に奨学生と学友の親睦会が開催されること

奨学生と学友が混じった親睦会が年に 2 回定期的に開催されています。

最初は学友だけの参加でしたが、現在では奨学生、カウンセラー、地区委員、学友の家族まで参加する会となりました。ここで特筆したいのは 2014 年 6 月 8 日に松江で開催した親睦会です。これは岡山エリア以外で初めて開催した、学友会が計画実施した親睦会です。

●協調性の高い役員メンバーが確保されていること

学友会の役員はそれぞれの担当がありますが、仕事、学習、家庭などの事情で担当の仕事を処理できない場合、ほかの役員が代わり

に担当することはよくあります。協調性の高い役員がいるからこそ、現在の学友活動が円滑に進められているのです。

●地区委員会と連携して地区行事に協力し、参加すること

地区委員会が米山奨学事業への理解が高く、学友と良好な協力関係が築かれています。委員会には学友の地区行事への参加の機会を作っています。学友もそれに応えて出来る範囲の協力をしております。

このような成果がある一方、深刻な課題も存在しています。自立した資金運営体制の構築や地理上の 3 地域（鳥取・島根・岡山）の共同活動の難しさが挙げられます。そして、更なる活動の活性化が望まれます。

今までの成果を次へと受け継いでいくと共に、課題の解決にも取り組んでいきたいと思っています。

最後に、米山奨学委員長研修会の開催などを通じて地区内に米山記念奨学生制度を広く宣伝して頂いた年度ガバナー事務所の皆様へ感謝の意を申し上げます。

2. 雑感

国際ロータリー 2690 地区 2014 - 15 年度ガバナー

松本 祐二 (益田西 RC)

国際ロータリー第 2690 地区の学友会が組織されて 3 回目の会報となりました。2014-15 年度の地区ガバナーとして昨年から様々な米山記念奨学会の活動に参加させていただいております。ロータリーに入会して 25 年以上を経過していますが、米山奨学生との交流もここ 10 年足らずのことで、まして学友となると数年前までその存在を認識しているものの交流などはありませんでした。

ロータリークラブに入会して静岡県のみ山梅吉記念館を訪れたのはもう何年も前のことです。現在の記念館の前の建物の頃でした。日本のロータリーの歴史の中で最初に語られる人でしたので、訪れたてみたというのが理由でした。その当時はクラブが米山奨学生を受け入れたことはなく遠い存在のみ山記念奨学生でした。現在の島根県立大学が浜田市に開設され、第 5 グループ内の地域内に初めての指定校の大学となりました。自分自身が米山奨学生のカウンセラーとなった経験もなくクラブでも現在までに僅かに 2 名の奨学生のお世話を経験しただけでした。

クラブでお世話させていただいた奨学生も東京での仕事を心得て地区外での生活となりほとんど交流もありませんでした。森本直前ガバナー年度の米山記念奨学会への取り組みから地区の動きが変わり、学友との交流なども動き出したのではないのでしょうか？

今年度この地区の山陰側の学友会組織も整備されてきましたので、学友会としての活動

ができるのではないかと考えております。奨学期間が終わって帰国される学友、日本国内で他の地区に転居される学友も少なくないようですので 2690 地区内の組織化された動きを求めるのは難しいのではないかと考えおりました。電子メールや SNS の利用と共に以前よりも連絡が簡単になり離れていても頻繁にやり取りができるようになっていきます。

最近は学友を中心としたロータリークラブの設立もあり、米山学友も ROTEX の仲間入りをしましたので新たな展開に期待をしております。Facebook も line も参加していますのでお声掛けください。

3. ご挨拶

米山記念奨学会理事・パストガバナー

葛尾 信弘（松江東 RC）

学友の皆さん！今日は！如何お過ごしでしょうか。本奨学会も 60 年の歴史を重ね約 17,000 人の学友を輩出し、国内外を問わず、それぞれの立場で御活躍されている事をロータリアンとして大変嬉しく思っております。理事就任 3 年目になりますが平素は皆さんと余り接する機会が少なく残念です。

2004 年 RI 理事会は本奨学会を正式に承認し、これまでの貢献を賞讃致しました。正に日本のロータリアンの誇りであります。

当地区の学友会は 3 県にまたがり地理的にもそれぞれ離れています。岡山地区は人数も多く、早くから組織化され、何曉麗会長の下、活動も活発で同慶の至りです。一方、島根、鳥取地区は人数も少ないので単独でなく 3 地区合同で年 2 回学友会が開催されていると承っております。

学友の皆さんも時が移り変わるとホームクラブ例会などに顔を出す機会も少なくなり、少々縁遠くなるかと思えます。その意味でも学友会の組織化、活性化が大切と思われます。2008 年、米山学友ホームカミング制度が発足しましたが学友会とロータリークラブが地域同士で連携し、親睦、交流を深めながら奉仕活動を行う方がよりロータリーの発展に寄与する事でしょう。

茲で私が個人的にお世話になった学友の一人フィン・ムイ先生（ベトナム、1973 年、東大大学院、数学、東京荘原 RC（現東京品川中央 RC））をご紹介します。

ムイ先生は 1988 年ベトナム初の私立大学（タンロン大学）をハノイに設立、学長就任後、タンロン技術学院院長としてベトナム人学生の日本語教育、IT 技術教育、人材育成、日本企業とのビジネスを展開、正に両国の懸橋として貢献されています。

私は、3 年半前、1940 年、旧日本軍仏印進駐作戦で若くして戦死した長兄の供養のためハノイを訪れ、ムイ先生にお世話になりました。ご多忙にも拘らず一日を割って戦死の地（ハノイ北方 180km、中越国境の町ドンダン）まで御案内して戴きました。ムイ先生の人間愛及びロータリーを通じた絆に深く感謝し、胸打たれる思いでした。

当地区の学友会の御発展を祈り又、お逢いしましょう。

（平成 26 年 12 月 12 日 記）

4. 私の国際奉仕の原点

米山記念奨学会評議員・パストガバナー

延原 正（岡山南 RC）

岡山の町を東に向かい峠を超えてしばらく行くと曹源禅寺という臨済宗妙心寺派の名刹がある。元禄 11 年（1698）建立された池田氏の菩提寺である。いつの頃から、和尚さん 1 人を除いて修業僧全員外人である。禅寺だけに変わっている。彼らは日常生活は勿論、立ち居振る舞い全て禅寺の作法に叶い修業に励んでいる。私は、この寺の和尚さんである原田正道老師に「なぜお弟子さん達はみんな外人なのですか」と尋ねた。和尚さんのお答は、私は師に「海を越えて来た人たちは大切にしなさい、親切にしてあげなさい」と教わりました、ただそれだけです。この禅寺で私は考えました。わが国は島国であり、古くより多くの文物は大陸を渡って伝来したものであり、それは仏教などで多くを語るに俟たない。これらはすべて異国の人々により荒波を越えてもたらされたものである。遣唐使の如くこちらの国から学ぶために出て行くのは後のことである。荒波を越えて来るということは、とりもなおさず命を賭けて、ということになる。我々はこうした歴史の上に暮らしているという事実を否定できないのである。短い「海を越えて」というフレーズに全ての大切な歴史が込められていることを教えられた。和尚さんの大きな広い考え方が外国の人々に広がり今があるのだと知りました。和尚さんの「師」山田無文老師のことを知ります。禅界では明治以後では稀代の名僧だといわれたお方で和尚さんは、花園大学を卒業され、山田無文老

師を慕い弟子入りをめざして、郷里の奈良から、当時神戸に庵を結んでおられた老師を訪ねて雲水姿の托鉢僧として歩いて庵まで行かれたと言われている。私はがバナーを務め、その後都合約 10 年間ロータリー財団の仕事を手伝ってきました。これから長くはないと思いますが、ロータリー米山記念奨学会のお仕事を手伝わせていただきます。その心は「海を越えて来た人」への教えであります。

延原 正

5. 2014～2015年度の地区米山奨学会の活動状況

米山記念奨学会委員会委員長

齋藤 寛治 (浜田 RC)

2015～2016年度の米山奨学生採用に向けて、選考行事がスタートしています。6月15日(日)島根県浜田市で、松本ガバナー、葛尾米山理事、佐藤ガバナーノミニーなど10名の選考委員の出席の下、「指定校選定委員会」を開催しました。次年度の2690地区の割当枠は20名(2年継続奨学生が2名いるため、新規採用枠は18名)です。奨学生候補の被推薦者数と指定校を選定しました。指定校に対し「地区選考目安」を五つ提示しましたが、その一つに「将来に亘って交流を続け、母国と日本の架け橋として友好親善に努める意欲をもつ学生」を条件としました。来年の1月18日に開催される「新規米山奨学生面接選考会」において18名が採用されます。

国内外で活躍する米山学友を招待し、地区大会など大きな行事でスピーチを披露してもらうことで、米山奨学生を見たこともない会員にも、寄付の意義やこの事業の成果を実感していただけるホームカミング制度がありま

す。本年度は浜田ロータリークラブで初めてお世話をした奨学生で、中国に帰国後、上海外国語大学准教授として活躍されている張紹鐸さんを招待しました。10月1日から10月6日まで当地区に滞在し、地区大会に於いて「ホームからホーム」との演題でスピーチを披露して頂きました。現役奨学生・学友・地区役員・多くのロータリアンと交流し、米山奨学会の意義と成果を伝えることが出来ました。



6. 縁

タイ学友会初代幹事

ホンヨック・ブサコーン（タイ、1997 - 98 年度、出雲中央 RC）

こんにちは。2690 地区の元奨学生・タイ学友のブサコーンと申します。

昨年の 10 月にホームカミング制度で地区大会に呼んで頂き、大変嬉しく思いました。また治郎丸様が空港まで迎えに来てくださったこと、感謝の気持ちでいっぱいです。久しぶりの日本語でのスピーチでしたので、結構緊張しましたが、皆さんが熱心に、時には笑って、聞いてくださいましたので、少しずつ落ち着きを取り戻し、最後までお話することができました。

その後、出雲中央ロータリークラブの浅津様が津山まで迎えにきて下さって、高校時代からのホストファミリーの坂本さんのおうちへ送って下さいました。久しぶりに坂本のお母さんに会って、今回の地区大会の原稿などを見てもらったところ、大変喜んでくれました。またひとつ親孝行ができたことは何よりでした。皆さんのお蔭です。

翌日は当時の伊藤会長のお招きで例会へ出席することになりました。その前夜は多くの出雲中央ロータリークラブの皆さんが集まって、食事会も準備して下さいました。学生時代の写真なども持ってきてくださり、思い出話などで盛り上がり、温かい気持ちで懐かしいひと時を過ごすことが出来ました。

皆様のお蔭で今まで、鳥根県横田町（現の奥出雲）でお手伝いをさせていただいたことやタイに帰国してから現在の仕事に就くことが出来て、このようによい生活と仕事をさせていただいてることに対するお礼を例会で直接お伝えすることが私の長年の夢でした。が、自分から言うのもどうかと思いついてずっと心の中に閉まっていたのですが、この度ご縁があってホームカミング制度で呼んでいただきましたことは、何よりも感謝でいっぱいでした。その気持ちもあって、実際に出雲中央ロータリーの皆様の前でお話をしようとする気持ちが高ぶって、大泣きをしてしまいま

した。大変はずかしく思いましたが、仕方がありませんでした。久しぶりに皆さんに会えて嬉しかったからです。

そのあと出雲中央ロータリークラブの方（古瀬さん）のご案内でいくつかの場所へ行ってきました。山本さんの素晴らしいご自宅、今岡さんの美術館、そして、最後に出雲大社へ連れて下さいました。ちょうど出雲大社大遷宮の年で 10 月の神在月に出雲大社へお参りできたのは、これも鳥根との「縁」ではないかと思いました。何かをお願いするより、今までの良い人生と素晴らしい縁を導いてくださり、感謝しておりますと出雲の神様にお伝え致しました。

そのあと、空港までお見送りしてくださった皆様には大変感謝しております。誕生日プレゼントまで下さって、感激しました。そして出雲大社にお参りした甲斐があったのでしょうか、不思議な「縁」に導かれて、今年（2014 年）の 9 月に鳥根県とタイ王国の工業省との覚書締結の式に溝口知事様の通訳のお手伝いをする事になり、日本国や鳥根県へ恩返しすることができて、大変嬉しく喜んでおります。その日は珍しく、タイ学友はそれぞれの立場で 3 名も揃いました。

今回のホームカミングは今までのように皆様の温かい心が十分伝わって来ましたし、言葉の通りアットホームな感じで過ごさせて頂きました。本当にありがとうございました。今後どうぞよろしくお願いいたします。



2013 年 2690 地区大会
指導者育成セミナー



2014 年 9 月鳥根県のタペ
in バンコク（一番左）

7. 中国からの近況報告

米山学友会中国支部学友

殷 駿 (中国、2009 - 11 年度、岡山南 RC)

第 2690 地区関係者の皆様、明けましておめでとうございます。私は 2009 年 - 11 年度岡山南 RC でお世話になりました奨学生の殷駿です。現在上海海事大学法学院の副教授で、学長室主任助手に兼任しています。2014 年 5 月 31 日に京都大学で開催された日本国際私法研究会第 127 回研究大会の学術報告概要を近況報告とさせていただきます。今回の報告は中国国内所属の学者では初めてです。宜しく願致します。

学会報告概要

中国新国際私法の適用について－契約と不法行為に関する学説・裁判例を中心に

2011 年 4 月、中国初めての国際私法単行法典「涉外民事関係法律適用法」(以下、新法という)が施行された。同法は、8 章 52 条で構成されているが、一方的抵触規定、反致、不法行為における法廷地法の累積適用を廃止する一方で、常居所地法を多用し、当事者意思自治を随所で採用している点などが注目を浴びている。

今回の報告では、新法施行後の 2011 年 4 月から 2013 年 7 月までの間に中国大陸の各審級の裁判所が新法を適用して裁判した涉外民事事件 157 件を素材にして、新法の実際の適用について分析を行った。上記事件のうち、中国(大陸)法を準拠法としたのは 151 件で、内国法の採用率が 94% 以上を占めている。

まず、101 件の契約・不法行為事件のうち、最密接地法主義よったのは 42 件もあり、最密接関係地法とされたのはすべて中国法である。次に、101 件のうち、当事者自治の原則を用いて準拠法を選定したものは 25 件で、そのほとんどが契約事件である。また、新法と旧法の時間的な適用関係は不明確で、新法施行後も不法行為について旧法を適用したものがある。さらに、特殊不法行為事件につき新法の特則はまだ適用されていない。

裁判例の分析から、次のことが明らかとなった。(1)法施行後 3 年以上経過したものの、実務上新法の普及は下級審ほど遅れている。これは、新法の適用について、一審口頭弁論終了時を経過時点とする「裏ルール」が司法実務上存在すること、裁判所は従来から法規よりも司法解釈を優先適用していることなどが原因であろう。(2)新法施行後も、内国法志向がなお強い。この現象は、裁判所は司法解釈のみでも法適用を決定できることに由来すると考えられる。(3)新法では、特則と一般規定の適用順位が明確でないことから、特殊不法行為について特則がまだ適用されていない。(4)新法に対する態度については、学界・立法機関と実務との間に齟齬がある。実務にとっては最高人民法院が絶対的存在であるため、司法解釈を重視する立場を採らざるを得ないことによるものと思われる。

E-mail : yinjun@shmtu.edu.cn

以上

8. ロータリーとの出会い

第 2690 地区米山学友・E クラブ会員

申 蓮花（中国、2007－09 年度、岡山南 RC）

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科で医学博士号を取得後、引き続き基礎医学研究をしています。2002 年に田中耕一さんがノーベル化学賞を受賞した技術を取り入れた最先端の質量分析機器を使って研究をしています。そして、同企業に勤めている誇りと喜びが大きな励みになって、さらなる拍車をかけてくれます。幸運の恵を受けているなら、それを最大限に生かした仕事をするのが自分の役目のような気がして研究に没頭している毎日です。この2年間の研究成果を香港、そして、フランスのニースの国際学会で発表して参りました。学位取得までの長い道のりを、世話クラブの皆様の暖かい応援のおかげで乗り越えることができ、本日の私がいると思っています。心から深く感謝を申し上げます。

去年の2月、カウンセラーの大和先生と長年お世話になった辻 誠一様にご推薦をいただき、東京米山ロータリーEクラブ2750の会員になりました。Eクラブではインターネット上で全ての会合を開き、さらに、ホームページ閲覧による例会も行われています。7か国の米山学友が在籍し、クラブ会員の約半数を占めます。国際色豊かですが、共通言語は日本語です。米山学友出身としてとても光栄に存じます。昨年度の会場監督を終え、今年度のクラブ幹事に拝命されました。社会人としても、ロータリアンとしても未熟で、新米で、大役に抜擢されて、大変恐縮に存じます。自分がロータリアンになって初めて分かった

ロータリーの素晴らしさ、そして、役員になって初めて感じた大変さは、米山奨学期間中に私が例会で感じたこと、理解していたことの範囲を遥かに越えていました。今まで支援してくださり、支えてくださったロータリアンの皆様への尊敬と感謝の気持ちで胸いっぱいになります。私にできることは、皆様の背中を追いかけながら、精一杯努力することほかにないと思っています。

奨学期間中には、クラブの多くの方と交流ができて、日本留学を始めて6年以来、初めて本当の日本を知ることができ、日本文化を学ぶことができました。米山奨学制度は、私達に経済的支援だけではなく、ロータリークラブを通して日本の文化、日本の習慣に触れながら、社会参加と社会貢献の意識を育て、社会奉仕、職業奉仕とは何かを教えてくださいました。この教えを心に深く刻み、人生を歩むことはとても心強いです。そして、自分の周りに伝えていくというとても大事な役割も与えられています。この使命を忘れることなく、これからの人生を楽しく歩んで生きたいと思います。今後ともご応援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

9. 平和を求める

第 2690 地区米山学友会・前会長

梁 栄友（韓国、1997 - 98 年度、印西 RC）

新約聖書のマタイによる福音書 5 章 9 節「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」となっています。世界は今、平和を求めています。

「戦争が起きるのは、二つの国が互いに相手を誤解するからである。異なった民族同士を隔てている諸々の偏見が根絶されるまでは、我々は平和を手にする事が出来ないであろう。」

しかし、平和を手にするために「あらゆる国の若人を定期的に一カ所に集め、肉体の力と敏捷さとを友好的に競わせることほど有効な手段が、ほかにはあるか」と近代五輪の父クーベルタンは、アテネで第一回大会が開かれた 1896 年に書かれた内容であります。

さて、平和の「和」という言葉は、禾と口が一つになっています。このノギヘンとしての禾は「稲・種・穂」などがそうであるように、「米」をあらわします。つまり平和の和とはコメに口、食物があって人の平安、和平は守られ、保たれることを意味しているのでしょう。まさに「衣食足りて礼節を知る」です。経済的に守られて平和を保たれる、これは世界的に例外はないのではないのでしょうか。そういえば、外国でも日本でも国際会議にはレセプション・会食はつきものです。これは互いに心をつなぐ一つにして食を共にすることを抜きにして平和や信頼は成り立たないものなのだというわけでしょう。

「平和とは相互に信頼して一緒に食べる」と定義できるのかも知れません。主イエス・キリストが「天国はこのようなものである」と言って譬えを語られた中に、食卓を共にし、宴を楽しむ様子を描いているのも、究極的平和は共にテーブルを囲むことということを示しているのでしょう。キリスト教会ではそれを聖餐式によって先取りしているのです。

「汝が平和を分け与えるとき、その手でパン

を裂き、パンを分かちことによってパンを増す。平和はそのパンに似ている」と言ったのは、かのアウグスチヌスでした。無資源国の日本が、世界で有数の生産国となり、農地の少ない国でこんなに食材にあふれているのは、全世界の国々のおかげであることを思わないわけにはいきません。それであるなら、難民を保護し、亡命者を援助し、発展途上国の経済安定のために寄与しなければなりません。「平和は力で保つことはできない。理解によってのみ平和を達成できる」とアインシュタインは言っている。

医療スタッフの派遣、技術援助、第三世界への支援や、難民救済のための出資、GNP に対する比率をどの国よりもアップする、これらは「有事立法」の成立より大切なことでありましょう。学友会は小さい団体ですが、小さいことから積み重ね、平和のために社会貢献に携えていくのが望ましいでしょう。自分ができるものを忠実に行なう時に、平和の光が見えて来ると思っています。

ルカによる福音書 21 章 28 節「このようなことが起こり始めたら、身を起こして頭を上げなさい。あなたがたの解放の 때가近いからだ。」となっています。

「このようなこと」とは、地震、疫病、飢饉、戦乱、人間不信等、いわゆる世も末だと思ふような事柄、事件である。そうした不安な中を「身を起こし頭を上げる」人間が求められる。

神が、世界と人間を創造された愛の御旨は、必ず勝利する。それゆえ、頭を挙げ、背筋を伸ばし、前向きに生きるのだ。プロテスタント教会では、立って讃美歌を歌うし、祈りの時もひざまづかない。これは、神に生かされる人間の威厳、尊厳を示すところから出たという。

10. 2014-2015 年度地区大会に参加して

第 2690 地区米山学友会・副会長

河 智弘（韓国、2000 - 01 年度、岡山丸の内 RC）

2014 年 10 月 4 日～5 日にかけて行われた地区大会に出席するため、来日 22 年目にして初めて島根県西へ行ってきました。

地区米山事務担当の平木さんの配慮で現米山記念奨学生二人と一緒に 4 人で夕食会をすることができました。素敵なイタリアンで女子会をしてお互いのカウンセラーとの交流や現在の研究課題、日本での生活などの話で楽しいひと時を過ごすことができました。

翌日、地区大会の会場となっている所はとても素敵な場所でした。島根県芸術文化センター「グラントワ」（広い屋根という意味のフランス語）という所で本会議から懇親会までスムーズに行われました。私たち米山学友と米山記念奨学生はランチの時に会議室に集まって交流の時間を持つことができました。

その時に紹介された方は、2004 年～2006 年に島根県立大学に在学していた張紹鐸先生で現在上海外国語大学の準教授として活躍している方でした。今回の地区大会の米山記念奨学会学友卓話のプログラムのため来日されたそうです。しかも卓話の謝礼まで 2690 地区の学友会に寄付してくださいました。現在、上海で上海学友会・中国学友会の活動を活発にされているそうです。

私たち 2690 地区の学友と上海学友会もお互い交流をしたいという話も出て、今後情報交換、互いの訪問なども実現できたらいいなと思いました。

また、午後からは学友と奨学生はエクスカー

ションに参加して益田市内にある「雪舟」の石庭が堂後にある「萬福寺」、石見美術館を見学することができて地域を深く知ることもできました。初めて訪れた島根県西でも素敵な思い出ができました。

今回の地区大会では、以前からお世話になっているたくさんのロータリーアンにお会いでき、交流ができてとても有益な時間を送れました。

そして、岡山に帰る時は奨学生の時の世話クラブであった岡山丸の内 RC の皆さんと同じバスで楽しい時間を過ごすことができました。懐かしい気持ちになって岡山へ帰ってきました。地区大会に関ってくださったたくさんのロータリーアンと事務局の方々に感謝しています。

11. ロータリーと日韓関係について

第 2690 地区米山学友会・幹事

羅 勝元（韓国、2005－07 年度、岡山南 RC）

2005 年 2 月 23 日、島根県議会は 2 月 22 日を「竹島の日」として制定した。これを契機に日韓関係は急激に冷え、国交樹立以来最悪の状況と言われるまでに至った。この頃、ロータリー米山記念奨学生の一選考会が米子で行われた。米子駅舎を出て一目に入ったのは、「韓国は不法占拠している竹島を返せ!」、「祝 2 月 22 日“竹島の日”」の看板だった。

複雑な心境と奨学生選考という状況の中、緊張は一層増した。受付を終えてロビーで待機している時だった。審査委員の方々が集まってお話をしている内容が聞こえてきた。

A：“韓国内の世論の影響で韓国のロータリアンが来られなくなりました。どうしたらいいでしょう。”

B：“先方から来られないのであれば我々が行けばいいだけのことです。”

A：“私たちが韓国へ行くんですか?”

B：“ロータリーは奉仕の精神をモットーにしているので、国の損得、政治的利害は一切関係ありません。”

現在の日韓関係も 10 年前と差ほど変わっていない中、その時の「奉仕」という言葉は今でも記憶に新しい。国語辞典によれば、奉仕とは、「国家・社会・目上の者などに利害を考えずにつくすこと」と記載されている。英語は volunteer もしくは service 注 1 が奉仕の意味となっているが、ロータリーでは後者を主として使用している。

日韓両国の発展は、お互いが各々の主張の

前に相手の立場を考え、最大限相手を配慮しなければ決して訪れない。当たり前のことが何故できないだろうか。それは、当たり前という先入観にとらわれ、真相を理解できないがために実践できないからである。利害関係を捨て、両者の友好関係を語ることは所詮表向きで、内心お互いが各々の利益を探っているのではなかろうか。

見返りを期待せず、結果を求めず、純粋な超我の気持ちで相手と接するロータリーの奉仕の精神こそ、今の両国に求められる最も重要なキーワードと考える。

注)

Volunteer：自発的にある活動に参加する人。特に、社会事業活動に無報酬で参加する人。

Service：相手のために気を配って尽くすこと。

12. 岡山南 RC の思いで

第 2690 地区米山学友

カトリ チェトリ プラカシュ（ネパール、2011－13 年度、岡山南 RC）

私はネパールから来ました、カトリチェトリプラカシュと申します。大学生の頃2年間（2011 年～2013 年）岡山南 RC に大変お世話になりました。ロータリークラブの米山記念奨学生になれたことを誇りに思っております。中学生のころロータリークラブの事を勉強したため、存じておりました。大学生になって、そのロータリークラブの奨学生になれたことをとても光栄に思っております。

米山奨学生に選ばれ、オリエンテーションに行ったあの日を思い出すととても懐かしく思います。知っている人がだれもなく、緊張しながら会場を向かおうとした時、ホテルのロビーで私の名前を呼ばれました。振り向いたら、二人の素敵な方がいて、その一人の手には紙がありました。おそらく奨学金を応募した時の私が提出した申込書だったと思います。申込書に写真が張っていたので、顔を確認するのもっていらっしゃったと思います。会う前はとても緊張していたのですが、実際にあってみるととても優しい方で、すぐ仲良くなりました。毎月例会に参加する時は席を案内して頂いたり、卒業後の進路についてのアドバイスを頂いたりしておりました。卒業のお祝いもして頂きました。一言で言いますと「うれしかった」。

米山奨学生の頃は素敵なロータリアンとお会いでき、素敵な時間を過ごしました。毎年の地区大会にも参加させて頂き、たくさんのロータリアンと他の奨学生と交流ができました。

た。皆様が経験した貴重な話を聞かせてくださいました。また、岡山南 RC のイベントの一つであるワイキキフェスティバルにも参加させていただきました。ロータリアンのご家族と交流ができ、他の日本の場所の踊りを見る事や他の場所の文化に触れることもできました。米山奨学生としてのこの2年間はあっという間でした。

社会奉仕に心がけているロータリアンの皆さまに感謝しております。本当にありがとうございました。

以上。

13. ロータリークラブと私

第 2690 地区米山学友

盛 茗 (中国、2010 - 11 年度、岡山岡南 RC)

私は盛茗と申します。2010-2011 年岡山岡南ロータリークラブでお世話になっておりました。月一回、世話クラブの例会に参加し、そこでロータリアンの皆さんとお話をしたり、研究の進捗を報告したりして、いつも楽しみにしていました。

この一年間、私は多くのロータリアンの皆さんに励まされ優しくしていただきました。例会出席だけでなく、日本の文化や日本の産業を深く理解できるよう、いろいろな交流もさせていただきました。特にロータリアンの保育園の見学では子ども達に熱く歓迎され、日本の琴を演奏してもらい、今でもその時の光景が目に残ります。また、当時私は大学で環境学を専攻していたこともあり、リサイクルをされているロータリアンと滋賀県にある堆肥プラントを見学しに行ったり、環境事業に取り組んでいるロータリアンの会社を見学したり、環境に対する日本の企業の考え方など、いろいろと勉強させていただきました。

私のカウンセラーは保育園の近藤園長先生です。お歳は 80 代ですが、とてもお元気です。困ったことはないかといつもさりげなく声をかけていただき、私にとってはとても心強い存在です。また、夏の納涼夜会やクリスマス例会にもご招待され、季節を感じながら皆さんと大変仲良くさせていただきました。

2011 年、私は岡山大学大学院環境学研究科を卒業し、株式会社中国銀行に入行しました。現在の所属部署は国際部で、お客様の海外進出や海外販路拡大のためのご支援、情報提供

の仕事をさせていただいております。銀行業務は幅が広く、高い専門知識が求められるため、銀行業務検定などの勉強は常にしないといけないのですが、優しい上司や同僚に恵まれ、日々元気に頑張っています。

最近、ある地方銀行が母国中国大連市の小学校の児童と校長を招き、地元の小学校との交流会を行ったとの記事が出ていました。銀行といえば、海外取引でも金融・経済に関する業務を行うところと思っていましたが、こうした文化面での海外交流にも銀行が参画することもあるのだと興味を持ちました。こう考えると、岡南ロータリークラブで経験また勉強させていただいたことが、今の職場でも活かせることがまだたくさんあるのではないかと思います。

今後も皆さんとのご縁を大事にして、私なりに交流に輪を広げていきたいと思っています。

14. アメリカでの留学生活

第 2690 地区米山奨学生

何 曉恩 (中国、2013 - 15 年度、松江 RC)

私は 18 歳の時に来日し、東京で 2 年間の語学勉強を経てその後、島根大学に進学しました。島根大学での学習生活が大変充実しており、研究室の先生やロータリーの会員様をはじめ、多くの方からサポートして頂き、心から感謝しています。

日本での学習生活は、日本語はまず、第一だと思いますが、専門を深く勉強することにつれ、英語を読み取る力や記述力が重視されてきます。総合的な英語力を養成するために、アメリカのコロンビア大学の語学研修プログラムに参加することを決意しました。

コロンビア大学はニューヨークのマンハッタンに位置し、アメリカの学生はもちろん世界各地から留学生が集まっています。例えば、私のクラスにはロシア、フランス、イタリア、サウディアラビア、カザフスタン、ブラジル、メキシコ、日本、韓国、中国、台湾から来ている学生がいます。授業では語学の勉強だけでなく、異なる文化、社会観、歴史観、倫理観、宗教観を持つ学生たちとの交流を深めることによって国際社会の勉強にもなりました。もう一つ幸運のことは、私は素晴らしいルームメイトに出会いました。彼は 43 歳のトルコ人で本国では有名な弁護士だそうです。私たちはいつも夕食を一緒に寮で作って食べます。毎日、様々な話題で話が盛り上がります。例えば、「ユダヤ人の話」「中央アジア」「アラビアの国々」「イスラム国」「貿易・ビジネス」「ヨーロッパの食文化」「人類の未来」「東アジア」「政府・指導者」「マネーマネジメント」などの話が私にとって非常に新鮮で印象

的でした。実は 3 ヶ月、私たちが始めて会った時に、私が知らない単語が多く英語でのコミュニケーションに困っていました。しかし、今は基本的な英語を使って楽しく会話できるようになりました。また、12/8 に今年度秋学期の終了式典で「Lifetime Achievement Award」というテーマでスピーチをしました。英語で先生や生徒たちの笑いを誘うことができて大変嬉しかったです。

これから後半年くらいアメリカに滞在することになっています。残りの時間はまず TOEFL テストの勉強に励みたいです。それから、専門の微生物学の英語版の本や資料を少しずつ読んでいきたいと思います。最後になりますが、ロータリークラブの会員様と島根大学の先生と友達を始め、今まで支えてくださった方々に改めて感謝申し上げます。

15. 活動写真



3月1日 米山学友会総会・2013年度奨学生歓送会



2月15日 梁栄友元会長饗別



4月27日 オリエンテーション歓迎会



4月27日 オリエンテーション歓迎会記念写真



5月5日 岡山エリア親睦会



6月15日 松江にての親睦会



8月31日 地区米山委員長研修会・奨学生学友親睦会



10月5日 地区大会

16. 米山学友会 役員・監事名簿

2014年－2015年度
国際ロータリー 第2690地区

(1) 会 長 (1 名)

- 何 曉 麗 (中国)〔2008-2009 年度〕

(2) 副会長 (2 名)

- 河 智 弘 (韓国)〔2000-2001 年度〕
- 馬 小 菲 (中国)〔2012-2013 年度〕

(3) 幹事 (2 名)

- 張 英 恩 (韓国)〔2007-2009 年度〕
- 羅 勝 元 (韓国)〔2005-2007 年度〕

(4) 委員長 (4 名)

- 親睦委員長 ● 馬 小 菲 (中国)〔2012-2013 年度〕
- 社会委員長 ● 李 多 暎 (韓国)〔2010-2011 年度〕
- 広報委員長 ● 何 曉 麗 (中国)〔2008-2009 年度〕
- 総務委員長 ● 張 英 恩 (韓国)〔2007-2009 年度〕

(5) 監 事 (2 名)

- 祝 洪 波 (中国)〔1991-1992 年度〕
- 齋藤 寛治 (地区米山記念奨学会委員長)

17. 2014 年度会計報告

2013-14 年度 学友会決算報告書

第 2690 地区 学友会

期間：2013 年 7 月 1 日～2014 年 6 月 30 日

(単位：円)

[収入の部]

科 目	金 額	備 考
前年度繰越金	¥11,770	
2013-14 年度収入	¥282,961	詳細は別途収入の部 (A) 参照
利息		
合 計	¥294,731	

[支出の部]

科 目	金 額	備 考
写真郵送費	¥2,930	前々年度報告漏れ 2011/12/12 領①
役員会後会食	¥2,668	前年度報告漏れ 2012/9/13 領②
2013-14 年度支出	¥219,070	詳細は別途支出の部 (B) 参照
合 計	¥224,668	

[次年度繰越金]

収入の部	¥294,731	円
支出の部	¥224,668	円
収支差額	¥70,063	円

以上の通り報告いたします。

2014 年 7 月 21 日
第 2690 地区学友会

監 事 治郎丸 清志 連絡先Tel: 090-7247-4425

監 事 祝 洪波 連絡先Tel: 080-3888-5915

会 計 何 曉麗 連絡先Tel: 080-6322-5708



18. 学友会会則

(財)ロータリー米山記念奨学会 学友会（第 2690 地区）会則

第一章 総則

第 1 条 この会は米山奨学生学友会（第 2690 地区）という。

第 2 条 この会は連絡先をガバナー事務所におく。

第二章 目的および活動

第 3 条 この会は会員相互の親睦を深め、ロータリー米山記念奨学会の事業の発展を支援することを目的とする。

第 4 条 この会は前条の目的を達成するために、次の活動を行う。

1. 総会の開催
2. 親睦会の開催
3. その他本会の趣旨に沿う活動

第三章 会員

第 5 条 この会の会員は次のとおりとする。

正会員

第 6 条 正会員は元米山奨学生と現役奨学生の有志とする。

第 7 条 本会の趣旨に反する会員に対して、本役員の決定を経て、会員資格を取り消すことができる。

第四章 組織

第 8 条 この会は次の役員をおく

1. 役員 3 名以上 10 名以下（うち会長、副会長を含む）
2. 監事 2 名（うちロータリアンを 1 名含む）

第 9 条 役員および監事は総会において正会員が承認する。

第 10 条 会長、役員および監事の任期は 1 年とする。（再選は 3 期まで）

第 11 条 会長はこの会を代表し、会務を総括する。

- 会長は総会、役員会の議長となる。
2. 副会長は 2 名とし、会長を補佐し、会長が事故のあるときはその職務を代行する。
 3. 幹事は 2 名とし、本会の行政・事務・会計などを総括する。
 4. 委員長は 4 名とし、各担当業務を総括する。
 - ①親睦委員長は、本会の親睦や交流に関する事項を総括する。
 - ②社会委員長は、社会奉仕や活動に関する事項を総括する。
 - ③広報委員長は、学友会の広報・広告・会報に関する事項を総括する。
 - ④総務委員長は、総会および役員会等に関する事項を総括する。

第五章 会議

第 12 条 定時総会は少なくとも毎年 1 回開催し、臨時総会は役員会が必要と認めた時に開催する。

第 13 条 役員会の議事は理事現在数の 3 分の 2 以上出席し、その出席役員の過半数でこれを決定し、可否同数であるときは採決することができる。

第六章 会計

第 14 条 この会の経費は、ロータリー米山記念奨学会からの補助金およびその他の収入で支弁する。

第 15 条 収支決算書は監事（うち 1 名はロータリアン）の意見をつけて、役員会の承認を受け、総会に提出し承認を受ける。

第七章 補足

第 16 条 この会則の施行についての細則ならびに補充削除は、役員会および総会の決議を持って定める。

第 17 条 本会の事業年度は、7 月 1 日より翌年 6 月末日までとする。

附則

この会則は、2005 年 11 月 13 日から施行する。

この会則は、2012 年 2 月 18 日に改定し施行する。

国際ロータリー第 2690 地区（鳥取・島根・岡山）
米山奨学生学友会会報 vol.3

発 行：第 2690 地区 米山奨学生学友会
印 刷：柏村印刷株式会社（島根県）